

～水産大学校と大津緑洋高校のみなさんが課外実習に来られました～

12月1日に水産大学校の生物生産学科3年生29名が、同月15日に大津緑洋高校の海洋科学科2年生15名が当センターに課外実習に来られましたので、その模様をご紹介します。

【水産大学校】



○新型コロナ対策のため、廃校になった青海島小学校の体育館で講演を行いました。

○水研センターは施設の老朽化が著しく、万一の事故を避けるために施設見学は止め、講演のみとしました。



○キジハタの資源管理について講演する南部専門研究員。

○その他南野室長、木原技師から当センターの業務内容について紹介しました。

【大津緑洋高校】

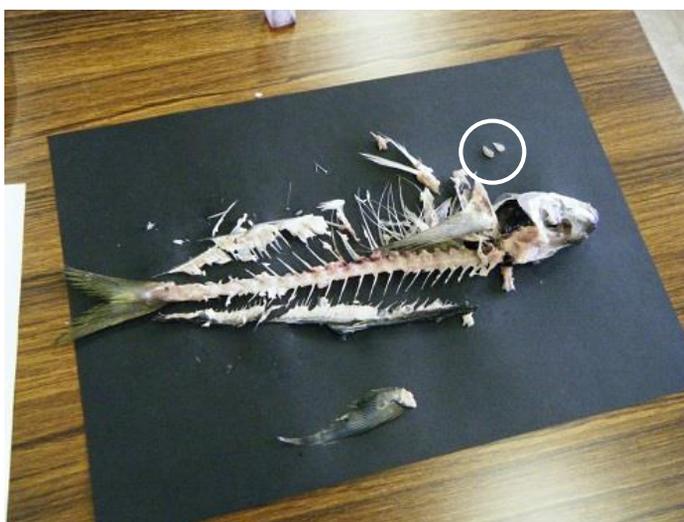


○午前中は、マアジの骨格観察と年齢形質である「耳石」の採取です。

○耳石について、南野室長から事前説明を聞く生徒たち。



○骨格標本を作る生徒たち。
集中しています！



○生徒の力作！
耳石（画像右上）もきっちり
2個探し当てることができました。

【大津緑洋高校】



○午後からは、ガンガゼの生殖巣取り出し体験です。

○木原技師によるガンガゼの説明。

○ガンガゼは、近年の地球温暖化等により本県外海側でも生息数が増えており、磯焼けの原因のひとつではないかと考えられています。



○寒風吹さらす中、屋外で木原技師の説明を聞く生徒たち。



○ガンガゼの生殖巣を取り出している生徒たち。

○画面左下は、ガンガゼの鋭いトゲをハサミで切っているところ。

【大津緑洋高校】



○生徒が取り出したガンガゼの生殖巣を水研センター特製のタレに付け込んだものとそのまま生のものを試食してもらい、アンケート調査に協力してもらいました。

○今後、山口県の漁業者がガンガゼを積極的に漁獲してもらうようにするためには、ガンガゼの加工技術やおいしく食べられるような商品開発が必要と考えています。